

2018（平成 30）年度 事業報告

認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

1. 研究会運営

(1) 公開理論研究会開催

6月10日に森川理事：「アフリカを学びたい人へ ～広大で多様で歴史のあるアフリカをとらえる」を武蔵野プレイスにて開催した。参加者24名。

(2) 上記を会報に掲載した。また過去に会報に掲載した論説をホームページに再掲。

2. 調査提言

(1) 生物多様性保全の行動につなげる普及に関する研究【地球環境基金事業】

ニュースクリップの作成 世界の生物多様性保全と消費に関するニュースをデータベース化し、原稿作成などに活用した。

(2) ワシントン条約、生物多様性条約、ボン条約など国際会議の情報を収集、重要な資料は和訳しウェブサイトに掲載した。

(3) (1)、(2)で収集した情報を活かし、今年度からメンバーになった「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」の事業「企業のエシカル通信簿」に情報提供をした。

3. 生息地支援

なし

注) 当会は生息地支援の実践的、理論的な重要性を早くから認識し、2007年度まではケニア・タンザニアでのアフリカゾウ保護活動、またインドでのトラ保護活動を支援していた。また2011年度から2016年度まではコンゴ共和国とコンゴ民主共和国でのゴリラの保護活動を支援していた。

2017年度以降は人的資源の比重を、限られた地域の生息地支援から、国内の消費者一般に対する野生生物の保全を意識した購買活動の提案に移したため、生息地支援活動は行っていない。

4. 普及啓発

(1) 消費と絶滅に関する情報発信【地球環境基金事業】

①小冊子「生きもの目線で活動チェック」を作成した。冊子は企業のCSR活動と関係が深いため、前述の「企業のエシカル通信簿」の評価に際し、情報提供に活用した。

②ポスター作成 東京デザイン専門学校社会活動推進室の協力により、「エシカル・コンシューマーになろう」を作成した。JWCS会員のほか、エコプロ2018に出展していた学校関係すべてに配布、また関係者に小冊子とともに郵送した。

③セミナー開催

8月4日札幌セミナー「フェアトレードと野生生物保全」を札幌エルプラザにて開催した。参加者15名。

9月15日 高松セミナー「地域の活動とSDGs~お醤油を出発点に、持続可能な生産・消費を考える」香川県社会福祉総合センターで開催した。参加者18名。

1月29日 公開研究会「生物多様性とビジネスの向かう先」GEOCで開催した。参加者11名。

2月3日 岐阜「第4回 伊勢湾流域圏の再生シンポジウム~生物多様性に配慮した持続可能な生産と消費~」伊勢湾再生を考えるシンポジウム実行委員会と共催で、ぎふメディアアコスモスにて実施。参加者約100名。

④エコプロ2018 出展 12月7-9日成果物のポスター掲示、制作物を配布した。

(2) セミナーの開催

4月22日 「大人のどーぶつ倶楽部」を横浜市ズーラシアにて実施した。講師は羽山伸一氏（日本獣医生命科学大学野生動物 教育研究機構長）。参加者21名。

3月3日国連世界野生生物の日記念イベントとして「大人のどーぶつ倶楽部」を埼玉県こども動物自然公園にて実施。講師は羽山伸一氏。参加者23名。

(3) IUCN 日本委員会のメンバーとしてイベントに協力

7月21日 IUCN 親善大使のイルカさんコンサートで、ボランティア2名とともにブース展示を行った。80,576円の募金収入があった。

(4) 他団体と協力して開催したイベント

6月2日生物多様性基本法制定10周年記念シンポジウムを共催。

(5) 講師派遣およびパネルや動画などの貸し出し

配給元から提供のあった『ナレディ』を並木理事に貸し出した。

(6) メールマガジン、ウェブサイトなど電子媒体による発信

翻訳記事をニュースブログおよびFacebookに掲載した。

12月25日にJWCSのTwitterで2018年に注目されたニューストップ10を発表した。

メールマガジン登録者648人 Facebook フォロワー774人 Twitter フォロワー901人
(2019年4月11日現在)

5. 国際会議参画

(1) CITES における日本に関する議題の対応

- ①イワシクジラに関する CITES 調査団来日を見込んで、4月11日「NGO 共同声明 ワシントン条約を遵守し、イワシクジラの流通を停止することを求めます」を政府に送付した。
- ②第30回動物委員会（7月16-21日ジュネーブ）に真田康弘氏（早稲田大学（早稲田大学地域・地域間研究機構 研究院客員准教授／客員主任研究員）を派遣（費用は科研「地球環境ガバナンスとレジームの変動－ CITES の発展・変容と国内実施」）。7月30日に東京ウィメンズプラザにて報告会を開催した。参加者23名。
- ③IUCN 日中韓会員会合（9月8-9日北京）に鈴木が参加。
- ④国際シンポジウム「海洋水産資源の持続可能な利用とワシントン条約：グローバルな規範形成と日本の対応」（9月26日早稲田大学）を後援。
- ⑤第70回常設委員会（10月1-5日ソチ）に鈴木が参加。遠井朗子氏、真田康弘氏も JWCS から参加。10月25日に GEOC にて参加報告会を開催。参加者15名。
- ⑥10月2日に国連大学で開催された IUCN70 周年シンポジウムで、運営およびポスター展示を行った。

6. 会報発行

年3回発行した。特集は以下の通り。

7月 公開理論研究会収録（森川理事）、11月 CITES 常設委員会報告

3月 萱野智篤氏執筆。フェアトレードと野生生物保全について。

7. NPO 運営

(1) 事務局員2名（週3相当）、1名（週2相当）ボランティア2名で運営した。

メールで連絡をとる翻訳ボランティア登録者約460名（2018年に16名増加）

(2) 3月29日に認定 NPO 継続申請を行った。

(3) 3月31日付で退職：高橋雄一

以上